

# さぬきの輪 TIMES

本気の2冊目



地域おこし協力隊、本気宣言





## 地域おこし協力隊

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、

地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、

地域力の維持・強化を

図っていくことを目的とした制度。

瀬戸内海に浮かぶ香川県でも

たくさん地域おこし協力隊が、様々な活動を通じて地域に

貢献しています。

「地域おこし協力隊って、なんだ？」

この問いに対する明確な答えはどこにもありません。

答えがあるとすれば、

それぞれの活動そのものが

それに代わるものだと思います。

それぞれの活動を

知っていただくことを通じて、

地域おこし協力隊を

より身近に感じていただき、

さらに地域との連携を

深めていきたい。

そんな想いから、

さぬきの輪TIMESを製作しました。

## Contents

- 04 特集「地域おこし協力隊、本気宣言」
- 06 小豆島
- 10 女木島
- 12 東かがわ市
- 15 あとがき

本気 その3

## 協力隊 × 行政連携体制サポート

行政と協力隊の本気の付き合い

県独自の行政職員・協力隊向けの研修や、行政と協力隊が意見交換をする座談会を実施。行政と協力隊が2人3脚で地域協力活動に取り組めるような体制づくりを進めています。



平成27年度現在、全国で2,600人以上の地域おこし協力隊が活動しています。各地で目覚ましい程の活躍を見せる隊員を見て、「自分たちの地域にも来て欲しい!」と、日本中で**地域おこし協力隊の募集**が始まっています。  
しかし、ただ「導入」するだけで効果を発揮するものではありません。地域・行政・隊員、それぞれの**本気**があって初めてスタートラインです。

そこで香川県は宣言します!

**地域おこし協力隊に本気で向き合う事を!**  
**本気で地域おこしがしたい人を大歓迎する事を!**

本気 その4

## 定住しやすい体制づくり

本気で暮らしをサポートします!

県内の空き家情報が一目で分かる「かがわ住まいネット」やサポートスタッフによるマッチングサービスが充実の「jobナビかがわ」など、任期後の定住を応援する体制を整えています!



# 香川県 地域おこし協力隊 本気宣言!!

本気で地域おこし協力隊するから香川県!

本気 その1

## 導入目的 明確化サポート

本気で導入準備をしています!

「なぜ協力隊を導入するのか?」「何のために、どんな事を協力隊にしてもらいたいのか?」行政・地域・コーディネーターが事前に徹底議論しています!



本気 その5

## 挑戦しやすい体制づくり

本気の挑戦をサポートします!

香川県は移住者向けの起業支援補助金や創業支援センターでの相談対応など、創業・起業の準備段階から創業後のフォローアップまでをサポートする体制を整えています! また「FAAVO香川」のオフィシャルパートナーとして、クラウドファンディングを活用した地域活性化事業を積極的に応援しています。



FAAVO 香川



かがわ暮らし

本気 その2

## 協力隊ネットワークで支え合う

本気の仲間がいます!

月に1度さめぎの輪の集いという地域おこし協力隊同士の意見交換会を開催しています。アイデアを交換したり、悩みを打ち明けたり、隊員同士で支え合えるネットワークができています!



詳しくは「さめぎの輪Web 地域おこし協力隊本気宣言特設ページ」をご覧ください →





移住体験施設は滞在期間や立地が異なる3種類を用意。利用者は希望に合わせて選ぶことができる。短期滞在施設は Airbnb にも登録しているため、海外からの問合せもあるという。



2013年の芸術祭中に建築されたUmaki camp。会期中は島民も来島者も自由に使えるキッチン、ラジオ局、映画鑑賞スペースなどに活用。会期終了後も教育や福祉に関わる事業を展開する拠点として活用されている。

「結びつける」の「to tie」から名付けられた Totie。「仲間と共に団体としていかに成長できるかが課題」と語る向井さん。小さな島の取組みは全国から注目を集めている。



プロフィール

## 向井 達也

出身地：奈良県  
活動地域：小豆島  
活動開始年月：平成25年12月

京都造形芸術大学空間演出デザイン学科卒業後、大阪の建築事務所に勤務。2013年瀬戸内国際芸術祭期間中、小豆島に滞在し、「Umaki camp」の維持管理はもちろん、島民と観光客の交流を生むイベント等を実施した。



# 小豆島 向井達也

— みんなでつなぐ —

平成28年4月、Totie（トティエ）というNPO法人が小豆島に誕生した。移住体験施設の運営、移住者交流会や島暮らし体験イベントの開催、小豆島町と連携した空き家バンク活用促進サポートなど、移住希望者と島をつなぐ事業を行っている。その事務局長を務めるのが地域おこし協力隊の向井さんだ。もともと建築事務所のスタッフだった向井さんは、2013年の瀬戸内国際芸術祭をきっかけに小豆島に移住。芸術祭中に島民と共に建築したUmaki camp（ウマキキャンプ）の運営や空き家改修のプロジェクトを実施している。

こうした取組みを今後も継続して行っていくために設立されたのがTotieだ。「僕だけの取組みじゃなくて、みんなの取組みにしたい」。取材中、何度も出たこの言葉は、5年後、10年後ではなく、もっと先の小豆島の将来までしっかりと見据えていることの表れだろう。ただの空き家が所有者にとって、移住者にとって、そして町にとって価値あるものになる。確かにみんなの取組みだが、その中心にいるのは若くて強い意思を持った地域おこし協力隊だ。





# 小豆島

## パトリック・ツアイ

— 島の日常を世界に —



全国から地域に移住している地域おこし協力隊。小豆島には国境を飛び越えてきた協力隊がいる。米国カリフォルニア州出身の写真家、パトリックさん（通称パトさん）だ。きっかけは初めて小豆島を訪れた2014年のアーティベント。島の魅力に惹き込まれ、世界中に島の魅力を届けたいと感じたという。

協力隊として島の魅力を表現しているパトさんの写真は、そのほとんどが島の日常を切り取ったもの。

「日常の中には島民が気づかない魅力がたくさんある」。海の向こうに魅力を届けている写真は、同時に島民が島の魅力を再発見するきっかけにもなっている。今年の夏に予定している写真展では、観光客だけでなく島民の方にも楽しんでもらえる工夫を凝らすという。

活動は自身の表現だけに留まらない。ニューヨーク大学で学んだ撮影技術と、都内の大学で写真の講師をしていた経験を活

かして、島の子供も達に表示することの楽しさを伝えている。小さい頃に表現することの楽しさを知ること、豊かな感性と創造力を持った大人が育つ。彼らはきっと世界に羽ばたき、島の魅力を伝える人間の1人になるのだろう。

写真と地域おこし。一見、何の関わりもないように思える。しかし、島の日常を切り取るパトさんの写真は、海を越えて世界中にその魅力を届けると共に、新たな表現者を生み出すきっかけを作っている。



島の日常を切り取るパトさんの写真は全てフィルムカメラで撮られたもの。「フィルムは柔らかい写真が撮れる。」その言葉通り、柔らかく温もりのある写真は、雑誌やWebなど、様々な媒体で取り上げられてきた。平成28年7月には写真集も発売される。



島の古民家から出てきたプロジェクターを使用した写真展を予定。観光客と共に島民にも懐かしさを感じてもらいたいと話す。来場者自らが写真を差し込む参加型の工夫も。



子供たちに表現することの楽しさを伝えると同時に、彼らの作品を展示する機会を積極的に設けるとい。そうすることで、子供たちは自然と表現することの面白さや嬉しさを体験することができる。



プロフィール

## パトリック・ツアイ

出身地：カリフォルニア州  
活動地域：小豆島  
活動開始年月：平成27年1月

アメリカニューヨーク大学映画学科卒業後、アーティスト、写真家として、東京の美術館での展示等を行う。2012年に出版した写真集「TIME」がベスト2012に選ばれる。台湾、東京の大学でアート、写真の講師経験も持つ。



# 女木島 武井美恵子

— 島を紡ぐ —

高松からフェリーでたった20分。鬼ヶ島の名で知られる女木島がある。夏は多くの海水浴客で賑わうこの島で、今年の3月から新しく武井さんが地域おこし協力隊に就任した。

5年前、自身も観光客として女木島を訪れた武井さん。島の景色や車に頼らない暮らしぶりに惹かれ、定期的に女木島に通うようになった。3月からは地域おこし協力隊として、耕作放棄地を活用した農業と、地域コミュニティ活動のサポート業務を行っている。アパレルメーカーに勤務していた経験から、素材の大切さを知る武井さん。使われていなかった畑

を活用して、かつて讃岐三白として県内で盛んに生産されていた綿花の栽培に取り組んでいる。将来は採れた綿を活用した製品作りにもチャレンジしたいと話す。

女木地区コミュニティ協議会のサポートも行っている。島の食材を使った新しいお土産の開発や情報発信など、様々なことに取り組み。中でも旧女木保育所の活用については、知恵を絞っている。1人でも多くの方にとって過ごしやすい場所となるよう、県内の地域おこし協力隊と島民の意見交換会を実施したり、若者の声を計画に反映させるため、島内の若者の意見を聞き取っている。島の外と中、大人と若者、島外からきた地域おこし協力隊だからこそ、それぞれの声をしっかりと紡ぎながら島の未来をつくりあげていく。

島の食材を使ったお土産作りにも取り組む。鬼ヶ島ならではのきびだんごも候補の1つ。地域の方とアイデアを交換しながら、少しずつ形にしていく。



もともと使われていなかった畑（写真左下）を地域の仲間と開墾。5月に種蒔きしてすぐに芽が出たという。収穫時期は11月頃。



活用方法を検討中の旧女木保育所。この日は県内の地域おこし協力隊を集めて、島民との意見交換会を実施。島外に住む方のアイデアを聞くことができる機会だけあって、「ぜひまたやってほしい」と、島民からも好評だ。

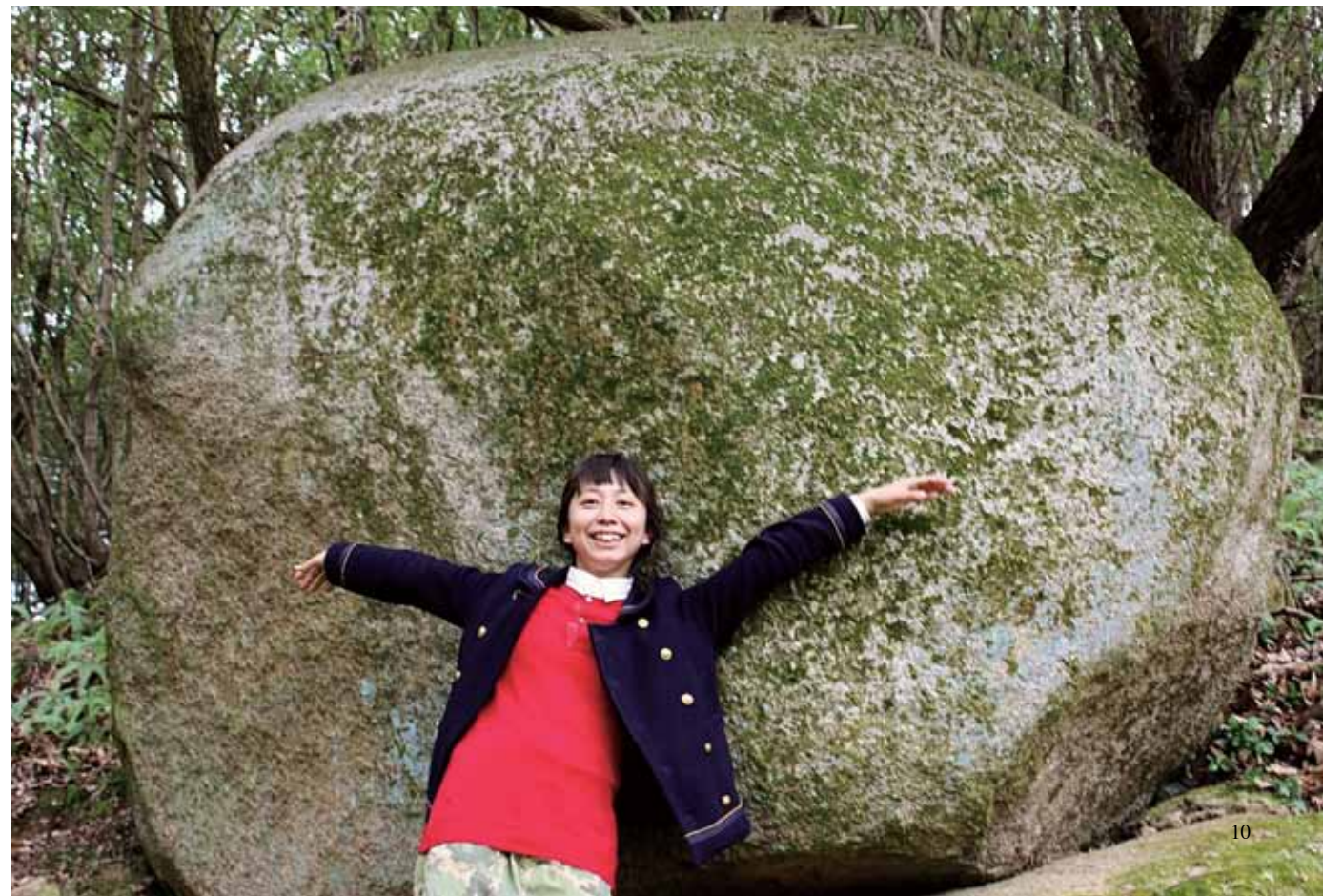


プロフィール

## 武井 美恵子

出身地：千葉県  
活動地域：女木島（高松市）  
活動開始年月：平成28年3月

服飾専門学校卒業後、東京の婦人服メーカーで生産管理に7年間従事。オリジナルテキスタイルの制作、国内縫製工場の管理を主に行う。自転車でも山にも山にも行ける環境に惹かれ、高松へ移住。





プライベートでも機会があればコーヒーを振るまっている滝さん。一杯一杯に気持ちとストーリーを込めながら、飲んだ人にホッとしてもらえるコーヒーを目標にしている。



イメージガールとして参加した四国食1グランプリ。仕込みやPR動画の撮影など、深夜にまで及ぶ準備もしっかり参加。地域の皆さんと想いを1つにすることができた貴重な体験だった。

# 東かがわ市 滝 かなえ

— 大好きだから、ここで —



「東かがわ市が大好きで戻ってきました」。

そう明るく話すのは地域おこし協力隊の滝さん。短大で栄養士の資格を取得後、神戸のカフェでバリスタとして勤務していたが、地元東かがわでカフェを開業したいとUターンした。

地域おこし協力隊として、ブログやSNSを通じて東かがわの魅力を発信する役割を担っている。数年ぶりに戻ってきた地元には、これまで気がつかなかった地域の魅力や人の温かさがあったという。

「改めて東かがわの魅力に触れ、もっと好きになりました」。

地元愛溢れる滝さんは、既に「タッキー」の愛称で地域から引っ張りだこに。ある団体ではイメージガールをお願いされる程だ。

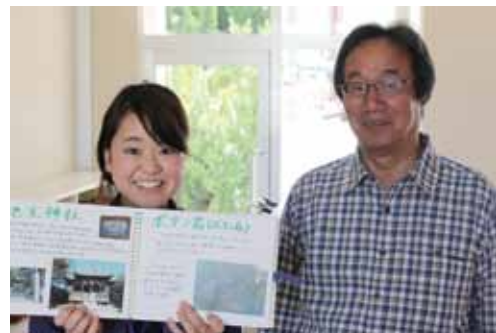
情報発信と並行して行っている

のは、地域コミュニティのサポート業務。イベントや畑仕事のお手伝い、市役所とのパイプ役などを担っている。そうしたサポート業務を行いながら、同コミュニティで開設予定であるコミュニティカフェ運営に向けても少しずつ準備を進めている。将来、自身でカフェを開業するのが夢の滝さんにとって、地域おこし協力隊としてコミュニティカフェの運営に携われることは、とても貴重な経験だ。

地域で若者が開業することは、それほど簡単なことではない。けれど、「大好きだから、地元で」。きつとこうした真っ直ぐさが仲間や応援者を呼び、夢の実現を可能にするのだろう。

東かがわの地域おこし協力隊は、大好きな地元で自分の夢に向かって一歩一歩、歩みを進めている。

コミュニティサポート業務を通じて、地域でのつながりや信頼関係を築いている。地域で仕事をするこの大変さを感じる一方で、家族のようなつながりから生まれる仕事の楽しさや、やりがいを感じているという。



プロフィール

## 滝 かなえ

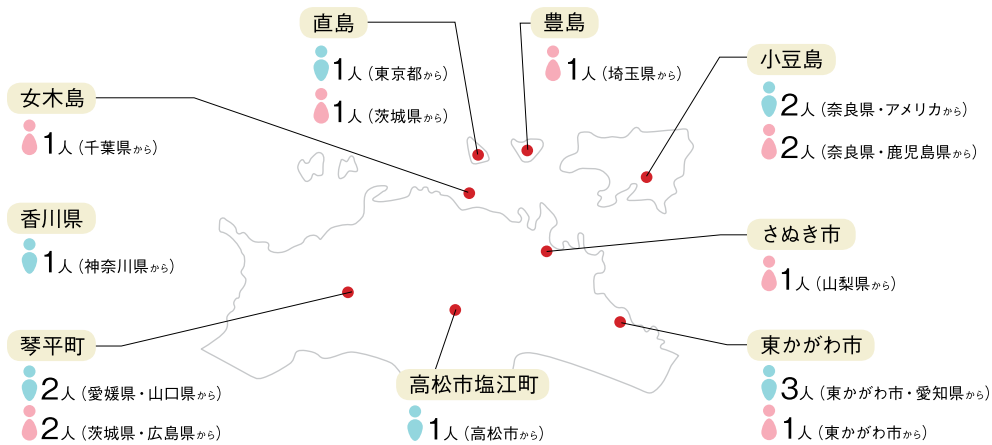
出身地：東かがわ市  
活動地域：東かがわ市  
活動開始年月：平成28年4月

神戸女子短期大学食物栄養学科卒業後、神戸のカフェでバリスタとして勤務。コーヒーを淹れること、飲むこと、アウトドアが大好き。



# 地域おこし協力隊の活動場所

今回、紹介した市町の他にも、地域おこし協力隊を受け入れている地域があります。各地で活躍する彼らの様子は次号以降で紹介していきます。(平成28年5月1日現在)



## ロゴについて



大きな輪は地域を、小さな輪は地域おこし協力隊を表しています。それぞれが個性的で多様性に富んだ協力隊の輪はカラフルで、決まった色はありません。その時々で色が変わります。大きな地域の輪に、小さいけれど多様でカラフルな地域おこし協力隊の輪がつながることで、さらに豊かで活き活きとした香川県になってほしいという想いが込められています。



### 地域おこし協力隊、本気宣言ロゴ

大きな地域の輪をグッと掴むのは、地域おこし協力隊をはじめとする「地域おこしに本気の人々」。地域・行政・地域おこし協力隊の本気が重なり合って初めて実現することのできる地域おこしを表現しました。

## ● あとがき ●

### “量より質の本気宣言”

香川県の協力隊として1年が経過し、各市町の協力隊や行政担当者の皆様と少しずつ関係性が築けてきました。

また、中四国を中心に全国の協力隊に関わる方々にもご縁をいただき、地域おこし協力隊を取り巻く環境がぼんやりと理解できるようになりました。政府は協力隊を2016年に3,000人、2020年に4,000人をめどに拡充することにしており、それに応じるように全国で地域おこし協力隊の募集が行われています。

しかし、数を増やす事、協力隊を導入する事が目的になってはいけません。地域おこしに本気で取り組む協力隊が1人いれば、それを受け入れる本気の行政職員・地域住民がいれば、それだけで地域は劇的に変わると信じています。焦らず、流されず、地道に、そして、本気で向き合おう。

本気宣言にはこうした決意が込められています。



県内の地域おこし協力隊がつながり始めています

# さぬきの輪の集い

平成27年9月から月に1度、県内の地域おこし協力隊及び

集落支援員の意見交換会を実施しています。

それぞれの活動地域や先進事例の視察、

地域おこしについてのアイデア出しなど、

普段の活動を更に充実させるための場所として機能しています。

今後は地域の方とも上手く連携し、開かれた会を目指して“輪”を拡げていきます。

地域おこし協力隊にご興味のある自治体職員のご参加も大歓迎です。

ぜひ、1度ご連絡ください。

地域おこし協力隊による情報ポータルサイト  
「さぬきの輪WEB」もぜひご覧ください。





# さぬきの輪TIMES

本気の2冊目

2016年8月 発行

発行：香川県地域おこし協力隊  
〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号

TEL：087-832-3105

FAX：087-831-1165

MAIL：chiki@pref.kagawa.lg.jp



さぬきの輪